

「大腸癌肝転移巣における抗癌剤効果規定因子に関する研究」のお知らせとお願い

●研究の目的

「がん」の治療に用いられる抗がん剤を投薬されても、人によって効いたり効かなかったりします。この効き方の違いが抗がん剤の分解や代謝に関わる酵素の働きの強さの個人差に関係する、という研究結果が報告されています。

今回の研究では、抗がん剤の効き方の違いを調べる基礎情報を収集する目的で実施します。得られた情報を分析することにより、将来的には、それぞれの進行大腸がん患者さんにとって効果的な治療が選択できるものと期待されています

●研究の対象と方法

以前手術で摘出し当院に保存してある大腸癌肝転移巣の病理標本を利用させていただきます。この病理標本は、すでに患者さんの病期の診断などに使用されたものです。この研究においては、腫瘍細胞の遺伝子の状態、遺伝子発現の測定のために腫瘍組織からRNAやDNAを抽出して使用します。また、腫瘍組織中のある特定のタンパク質を抗体という試薬を用いて染めることで、タンパク質の量を調べます。

そのような検査を行うために、病理標本を共同研究機関である熊本大学に送付します。また、検査の一部を実施するために、標本の一部はロサンゼルスにある検査会社に送付されます。

●保存してある病理標本を研究に用いることについて

本研究は、個人に適した大腸がんの治療法の選択を将来可能にするためには重要かつ必要な研究であり、当院に保存してある病理標本を用いることが不可欠であると、当院の倫理審査委員会により判断されました。

一方、本研究では病理標本の提供者に危険・不利益が及ぶ可能性はありません。その理由は、
①病理標本を嚴重に匿名化して研究を行うので、プライバシーの侵害が生じる恐れがないこと、
②保存してある病理標本を用いるので提供者に新たな身体的負担がかからないこと、です。

また、患者さん等からのご希望があれば、その方すでに保存してある病理標本等を研究に使用しないようにします。

以上、ご説明した研究に当てはまると思われる方で、当院に保存されているご自身の病理標本を研究に使わないで欲しい、というご希望があれば、担当医までお申し出いただきますようお願いいたします。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、当院におけるご自身の診療には何の影響もなく、不利益をこうむることはありません。

●照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

東京大学医学部附属病院 肝胆膵外科

研究責任者：国土典宏、連絡担当者：吉岡龍二

〒113-0033/8655 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院医学系研究科 肝胆膵外科

Tel: 03-3815-5411(内線 37143) Fax: 03-5800-9871